

株式会社LIXIL

グローバルNo.1を目指すLIXILが 50,000ライセンスのEV.cloudを導入

Office 365とEV.cloudを組み合わせたメールアーカイブにより、ガバナンスおよびコンプライアンス強化をグローバル規模で実現

株式会社LIXILを中心としたLIXILグループは、世界約150の国と地域で住生活に関連する商品を展開するグローバルカンパニー。同社は2011年4月1日に、トステム株式会社、株式会社INAX、新日軽株式会社、サンウエーブ工業株式会社、東洋エクステリア株式会社が統合して誕生した。2013年には、北米のアメリカンスタンダード ブランズとインドのスターアルビルドを子会社化し、2015年にドイツのグローエグループを子会社化して、世界の住生活産業を牽引する企業へと成長してきた。そして、2015年に5万人規模でOffice365のクラウドメールを導入し、そのアーカイブサービスとして、会社の信用問題につながるような重要情報の保存、管理、開示に役立つクラウドベースのメールアーカイブサービスEnterprise Vault.cloud(以下:EV.cloud)を採用した。



株式会社 LIXIL
上席執行役員 CIO 兼 情報システム本部 本部長 小和瀬 浩之 氏
情報システム本部 Information Excellence 部 部長 菖蒲 真希 氏

住宅ソリューション事業を提供するグローバル企業のITミッション

住生活産業における革新的な製品とサービスで、世界中の人びとの暮らしに貢献する「真のグローバル企業」を目指すLIXILグループ。同社は5社が統合した2011年からの2年間は、「経営基盤の確立」に取り組んできた。そして、2013年からは合併によるグループ力の強化で、「成長体制の確立」を果たしてきた。現在は、事業計画の最終フェーズとなる「世界に誇れるグローバル企業」を目指している。その展開地域は、世界約150カ国に及び、グローバルで約8万人のスタッフが活躍している。そのLIXILグループをITで支えているのが、情報システム本部になる。株式会社LIXIL の上席執行役員で、CIO 兼 情報システム本部本部長の小和瀬浩之氏は、その役割や使命について、次のように切り出す。

「グローバルにおける企業経営にとって、データ分析を中心とした経営戦略は、必須だと捉えています。つまり、グローバル経営=データ経営なのです。そのためにIT部門ができること、やらなければならないことは、数多くあります。例えば、グローバル企業では、海外の売上や在庫のデータを一元的に見るための業務標準やシステム基準の確立は当たり前になっています。しかし、日本ではそのようなグローバルスタンダードを確立したITインフラの構築を実現できている例は、まだ15%にも満たないと聞いています。こうした日本と世界のITインフラの違いは、情報システム部門の意識の違いにあるのだと思っています」

小和瀬氏の指摘するIT部門の意識とは、どういふものか。

「これまでのIT部門というと、ITインフラを構築・運用するエキスパートの集まりだと思われがちでした。しかし、これからはそうしたスキルの上に、経営や業務に対して的確にソリューションを提案できる知見が求められています。そのためには、グローバルスタンダードを意識し、付加価値の高いクラウドサービスを積極的に採用していくべきなのです」



会社概要

株式会社LIXIL

<http://www.lixil.co.jp/>

- 従業員数：連結従業員数 52,427人
(2015年3月末)
- 業 種：建設土木業
- 事業概要：建材・設備機器の製造・販売
およびその関連サービス業

導入概要

Enterprise Vault.cloud

課題

グローバル経営を支えるために、ITインフラをグローバルスタンダードにする。また、グローバル規模のメールのアーカイブにより、コンプライアンスにも貢献する。

ソリューション

Office 365を5万ライセンス導入し、そのアーカイブのために、Enterprise Vault.cloudを採用した。

導入効果

- E-ディスカバリー法に対応できる高速なアーカイブの検索を実現
- グローバルでの展開を見据えたときに、十分に対応できると評価

グローバルスタンダードを確立するために Office 365のクラウドメールを導入

グローバルスタンダードを積極的に取り入れ、経営や業務にとってプラスアルファとなる付加価値を提供するITインフラの構築に取り組む情報システム本部では、この数年で多くのクラウドサービスを採用してきた。その中で、2015年に取り組んだ大規模なプロジェクトが、クラウドメールの導入だった。その選定の背景と理由について、情報システム本部 Information Excellence部 部長の菖蒲 真希氏は、次のように振り返る。

「グローバルNo.1を目指すにあたって、2013年からメールの基盤をグローバルスタンダードにしようと、検討を開始しました。当初は、複数のメールシステムを検討しましたが、最終的にはOffice 365ともう一社のサービスに絞られました。そして、以前から国内ではExchange Serverを利用していたことと、グローバルでの展開なども考慮して、5万人分のOffice 365 Enterpriseを契約することにしました」

Office 365 Enterpriseは、メールと予定表を中心に、オンライン会議やインスタントメッセージなどが利用できるクラウドサービスであり、グローバルに対応している。

「Office 365 Enterpriseの採用を決めた時点で、Exchange Serverで運用していたメールのアーカイブをどうするか、新たに検討しなければならなくなりました。オンプレミスのExchange Serverでは、自社でアーカイブのシステムを運用していました。しかし、Office 365 Enterpriseでは、各自が利用できるメールの保存容量も大きくなるので、オンプレミスのシステムでは対応しきれないと思ったのです」と菖蒲氏はアーカイブの課題について触れる。

さらに小和瀬氏が、経営的な課題についても補足する。

「M&Aによりビジネスが急速にグローバル化する中で、コーポレートガバナンスやコンプライアンス、さらには訴訟対応という観点からも、メールアーカイブの整備は急務でした」

E-ディスカバリー法にも対応できる検索性能などを評価して EV.cloudを採用

Office 365 Enterpriseで利用するグローバル規模のメールをアーカイブするために、情報システム本部では、EV.cloudを含めて3社のアーカイビング製品を検討した。

「最終的には、EV.cloudとOffice 365のオプションとして提供されているアーカイブ機能を比較しました。そのときに重視したのは、コストパフォーマンスはもちろんですが、グローバル対応とE-ディスカバリー法を順守できる検索性能でした。グローバルスタンダードを見据えていくと、裁判所などから要請があったときに、決められた時間以内にメールを検索してエビデンスを提出できるかどうかは、重要なポイントでした」と菖蒲氏は検討の経緯を説明する。

E-ディスカバリー法は、米国の民事訴訟における証拠開示手続きのうち、電子データに関する情報についての法律。E-ディスカバリーや様々な電子情報開示要求の対象となるデータには電子メールも含まれ、その保全義務や開示要請に対する報告期限も短時間であるケースが多い。そこで、様々な情報開示を求められた場合に備え、アーカイブされたメールを短時間で検索する性能は、必須となっていた。

「性能を確かめるために、ダミーの膨大なメールデータを作成し、実際に検索時間を計測しました。その結果、EV.cloudの検索時間が早かったのが、選定の決め手となりました。加えて、BCCで送信されたメールもアーカイブされる点も評価しました」と菖蒲氏は選定の理由を語る。

経営と業務に貢献するIT部門として EV.cloudのさらなる活用を目指す

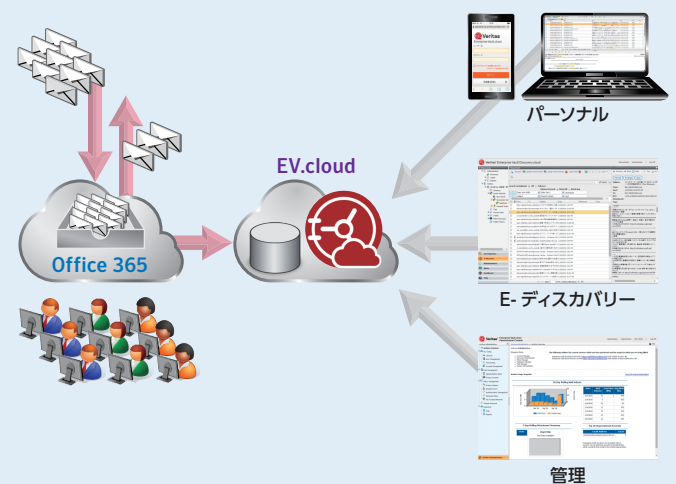
EV.cloudによる運用体制について、菖蒲氏は次のように説明する。

「EV.cloudによるメールの検索は、監査と人事部門からのみ受け付けています。依頼があると、情報システム本部で権限を与えられたエンジニアが、担当者の立会の元でアーカイブを検索します。依頼者とオペレーターを分離することで、運用面でのコンプライアンスを担保しています」

導入後、すでに何件かの依頼を元にアーカイブの検索を行い、必要とするメールを探し出した実績もある。

「LIXILグループは、2018年3月期までに連結売上高2兆円を、そのうち海外での売り上げ比率を現状の24%から38%に引き上げたいと考えています。そのためには、IT部門として経営と業務に貢献するITインフラとソリューションを積極的に提案していかなければなりません。今回のEV.cloudの採用は、グローバルスタンダードでのメールアーカイブにより、E-ディスカバリー法への対応をはじめとして、コンプライアンスの強化などにも貢献しています。ガバナンスの領域は経営判断にもつながる重要な取り組みです。今後も、メールだけではなくEV.cloudを活用できる領域を検討するなど、さらに会社貢献できるITを推進していきます」と小和瀬氏は展望を語った。

ソリューション概要図



VERITAS™

ベリタステクノロジーズ合同会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-11-44 赤坂インターシティ
<https://www.veritas.com/content/veritas/japanese/jp-ja>